



高校生を対象とした遠隔授業

「遠隔授業」は、鳥取情報ハイウェイ、Torikyo-NET（鳥取県内の学校を接続する情報ネットワーク）などの活用により、大学から行われる授業を、生徒は高校に居ながらにして、リアルタイムで受けることができます。

今年度（5～11月実施）、県外では誠英高校（山口県防府市）「インターネット、ネットワークとコンピュータ」をテーマに、県内では青谷高校、鳥取工業高校、米子工業高校の計3校において、「生活を巡る水



18年度春期市街地一斉清掃

5月28日、本学学生や若桜街道両側の町内会を中心に、鳥取西高校の生徒さんにも協力してもらい107名の参加者が鳥取市街地を清掃しました。例年、本学学生が主催して春と秋に実施している「市街地一斉清掃」ですが、今回は、「鳥取市民の皆さんに恩返しをする」という趣旨で、従来行っていた若桜街道や智頭街道沿いだけでなくその周辺地区で、約45kgのゴミを拾いました。また、日本全国で同時に清掃し、拾ったゴミを持って正午ちょうどにジャンプすると日本列島が一瞬軽くなる？「日本列島を軽くしよう！」という清掃イベントも本学学生が主催して同時に行われ、高知



地球温暖化防止フォーラムに参加しました

鳥取県内の環境配慮活動に取り組む団体・企業や個人が集まり、それぞれの情報交換や各種環境活動への参加呼びかけを行うことを目的に、『とっとり環境ネットワーク（盛田榮一代表、109団体）』が設立されました。同ネットワーク設立1周年を記念し、環境を重視した地域づくりに向けた活動の輪を一層拡げることを目指して6月10日「とっとり環境デー・地球温暖化防止フォーラム」が開催され、本学からも教職員・学生が多数参加しました。

フォーラムでは、『省エネなど二酸化炭素を削減するためのライフスタイルについて』をテーマに、本学教員・学生などによる研究発表のほか、古澤学長による講演、小池環境大臣（当時）と片山鳥取県知事による『環境対談』などが行われ、これまで慣れ親しんだライフスタイルを見直し、未来を創造



新規に開設！実務に精通した講師による“ビジネス講座”

鳥取商工会議所会員企業に協力を得て行ったアンケートにおいて、ビジネス実務に関する講座、研修等実施の要望が高かったことから、本年度、本学のサテライト・キャンパスとして“ビジネス講座”「勝つための決算書の見方（6月18日）」「人生生き生き暮らすために（7月9日）」「会社経営・事業成功のポイント（7月16日）」を3回開催しました。今後もニーズに応じた、講座の開催を検討していきたいと思っております。



韓国ハルリム大学生との交流レポート

昨年度に引き続き、7月13日に、鳥取県西部にある南部町でホームステイ中の韓国ハルリム大学（江原道春川市）の日本学科学生10名及び関係者が、本学を訪問し、本学学生13名と交流しました。お互い相手国語で自己紹介し、学内見学、学食での昼食後、皆で鳥取砂丘を散策しました。昨年はこの交流がきっかけで、本学学生が江原道を訪ねたり、ハルリム大生が鳥取市へ滞在に来たりと、学生同士のよいつながりができました。今年も、短い時間でしたが、アドレス交換



“循環型まちづくりシンポジウム”を開催！

21世紀に生きる私たちは、地球温暖化などの様々な環境問題や資源枯渇の問題に直面しています。『環境』をテーマに設立した鳥取環境大学では、“Think globally, Act locally”の精神の通り、地方・地域からこれらの問題に如何に取り組んで、解決の芽を出すかを追求しています。

7月23日、本学が『循環型まちづくり』の社会実験と位置付けて実施している「廃食油のバイオディーゼル燃料（BDF）転換活用事業」のご紹介と合わせて、ご支援・ご協力いただいた地域・市民の皆様方への感謝を込め



第42回

しゃんしゃん祭レポート

8月12日、鳥取市の夏の風物詩「第42回鳥取しゃんしゃんまつり」に“鳥取環境大学連”として95名の本学学生が参加しました。祭の当日、開始早々に会場を夕立ちが見舞うというハプニングがあったものの、練習の成果を発揮して美しく力強い踊りを披露するだけでなく、曲に合わせて掛け声をかけるなどの踊り子達の強い連帯感が見られました。また、本学学生連独自の目玉である“ゴミ拾い隊”は今年も活躍し、踊り子達の後について移動し、路上のゴミや踊り傘から落ちた紙などを拾い集めました。



鳥取砂丘除草ボランティア参加！

8月18日早朝6時、鳥取砂丘景観保全協議会主催の鳥取砂丘除草ボランティアに、神近牧男副学長と事務局職員及び本学学生ら計6名で参加しました。鳥取砂丘では昭和45年頃から外来の雑草が繁茂し、砂の移動が減少して美しい風紋や砂簾（されん）が見られにくくなったり、砂丘本来の美しい景観を損ねたりするなど、砂丘の草原化が深刻な問題になっています。当日は30名の県民の方と一緒に、山の背下付近一帯の除草を約2時間行いました。帰りに背負った、抜いた草の重みに充実感を得ることができましたが、鳥取の代表的な観光地である鳥取砂丘が、多くの方にその存在・環

JR津ノ井駅清掃活動

8月19日、本学最寄りのJR津ノ井駅周辺のボランティア清掃活動に、本学のバスケットボール部とTUES FUTSAL CLUBが参加しました。この企画は子供を非行から守る桜ヶ丘グリーンゾーン推進協議会と鳥取警察署が「少年非行防止キャンペーン」の一環として3年前から実施しているもので、本学は昨年から参加しています。今回は、鳥取工業高校の生徒と地元住民及び本学学生・職員が参加し、本学の学生らは、駅前駐車場や周辺道路の除草を担当しましたが、土が固く車に踏まれている草はなかなか抜くにくく苦労しました。午前9時から10時過ぎまでの約1時間、当日は曇り空のため暑さはあまり苦になりませんでした、それでも終わった時には汗をびしょりかいていました。日頃より何気なく利用している津ノ井駅や周辺道路は知らないうちにゴミがたまり、草が生え、見た目も悪くなっています。今回の参加によって少しでも地域の環境の改善に役立ててよかった



鷲見研究室 マイコンカー製作教育

経済産業省主催の「平成18年度 ITクラブトマンシップ・プロジェクト」に鷲見研究室の企画したマイコンカー製作教室が2年連続で採択されました。本年度は8月19日・20日の2日間、は米子市で開催しました。小中学生を対象にマイコンカーを作りながらハードウェア・ソフトウェアについて学び、ものづくりの楽しさを味わってもらい、未



地域交流プログラム 2006 in 鳥取

9月23日に独立行政法人日本学生支援機構中国支部主催で、本学を会場とした「地域交流プログラム2006 in 鳥取」(サブテーマ:「環境保全」 ずっと住みたい地球のために)が開催されました。本プログラムは、中国地方5県の外国人留学生ら約90名が来学し、様々なプログラムを経験しながら国際交流と各人が地球にやさしい行動とは何かを考える一助とすべく、1泊2日の日程で企画されたものです。

当日の内容は神近牧男副学長による基調講演(「地球環境問題を考えようー鳥取砂丘の利用と世界の砂漠化問題」)をはじめ、施設見学、石川真澄環境政策学科助教授がファシリテーターをつとめる分科会&全体会では、様々な出身国の環境に関する話がグループ討議により話し合われました。本学学生も司会や施設案内を通し貴重な経験をし、環境問題の国際化とグローバルな視

ECO検定受験!

10月15日、全国33会場で行われた第1回環境社会検定試験(eco検定)[東京商工会議所主催]に本学から受験した学生のうち78名が合格、晴れて、幅広い環境問題に対する基礎的な知識を持ち、そこから生まれる環境意識を日常行動に率先して移せる人材『エコビブル』となりました!この検定試験は、温暖化などの地球環境問題・時事問題などから90題が出題され、全国で約1万5千人余りが受験しました。受験者は社会人が多く、本試験が企業のCSR(社会的責任)活動や環境ビジネスの展開に寄与するなど、社会のニーズに合ったものであることを裏付ける結果になったようです。また大学生にとっても環境関連分野の企業・団体や、環境に配慮した企業等への就職活動に大きなアピール材料になると考えられ



産官学連携フェスティバル2006 に参加・出展

10月17日・18日、鳥取県民文化会館で、2日間にわたり「産官学連携フェスティバル2006」が開催されました。同フェスティバルは、鳥取県内で活躍する各分野の研究者、技術者などが研究成果や技術等を発表する場で、分科会、パネルディスカッションと盛りだくさんの内容で実施されました。主催者の発表で延べ約450人の参加者があり、本学からは口頭発表4件、ポスター発表11件計15件の発表が行われました。口頭発表の内容は以下の通りです。

1. 「追突防止システムの開発による環境保全」(情報システム学科教授 鷲野翔一)
2. 「省エネタイプPLL周波数シンセサイザの実用化への研究開発」(情報システム学科教授 鷲見育亮)
3. 「サステナブルシティ実現戦略の研究-2」(環境デザイン学科教授 木俣信行)
4. 「鳥取県におけるエネルギーの自律を目指すバ

日本環境教育学会 第18回大会(鳥取)プレイベント 「鳥取で環境教育を語ろう」

国内外で環境教育への関心が高まる中、本年5月25~27日まで、日本環境教育学会第18回大会鳥取(主催:日本環境教育学会他)が本学で開催されます。この大会のプレイベントとして10月21日鳥取県内の環境教育に関心を持つ学生(高校生や大学生)、一般市民、学校教育・社会教育・NPOなど関係者の方々にお集まりいただき、鳥取市内で交流を深めました。当日は、本学環境政策学科小林教授から基調報告があり、池田満之氏(持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)副代表理事)、牛山佳久氏(自然体験活動推進協議会(CONE)副代表理事)、渡辺峰夫氏(日本ネイチャーゲーム協会(JNGA)事務局長)の各氏がそれぞれの立場から、環境教育について話がありました。その後、「鳥取で環境教育を語ろう」をテーマにパネルディスカッションが行われました。ディスカッションでは、一般の方から、地域の住民を巻き込むシステム作りのポイントは何か、



鳥取市奨学金交付式及び 竹内鳥取市長との懇談会

12月4日、「鳥取市鳥取環境大学奨学金」交付式が、本学で行われました。(本奨学金は年間50~60万円が鳥取市から給付される制度です)給付を受ける学生14名が式に参加しました。その後、若者の意見を市政に反映させるために竹内鳥取市長と学生との間で懇談会が開かれ、日頃学生が感じていることや、鳥取市活性化のための要望等を一人ずつ発表し、和やかなうちに



「山陰中核地域 ものづくりフェア2006」へ出展

12月8日~10日、米子コンベンションセンターで開催された「山陰中核地域ものづくりフェア2006」に出展し約800名の方が本学ブースを訪れました。本学は、下記の2つの研究室の成果について、パネル展示及び開発したシステムやロボットのデモンストレーション・体験を行いました。

エコプロジェクト「ガソリン消費追跡システムの開発」(鷲野研究室) 「視覚セ



「エコプロダクツ2006」へ出展

12月14~16日、東京ビックサイトで開催されたエコプロダクツ2006に本学も出展しました。本学ブースには昨年を大きく上回る1,000人以上の方にお越しいただき、本学の取組(エコプロジェクト)を紹介するとともに、対応に当たった教職員により、来場者や他の出展者との交流を図りました。(エコプロジェクトとは本学でCO₂排出削減のための5つのプロジェクトであり、教